

ハワイ在住のゴスペルシンガー・森繁 昇さんの
ユーモラスなトークと素敵な歌声。
爽やかなひと時をお過ごしください♪



プロフィール
山口県生まれ。大学卒業後、米国テネシー州に渡り、イエス・キリストに出会う。その後、音楽伝道を開始。1986年ハワイに拠点を移す。年間3~5回来日し、各地の教会でコンサートツアーを展開する。

※同日午前10時30分からの日曜礼拝の中でも、森繁氏の特別賛美があります。(日曜礼拝では席上献金があります。)

「風が吹く」
作詞&作曲: 森繁 昇

風が吹く どこからか
枝が揺れ 木の葉が舞うからさ
風が吹く どこかへと
頬に冷たい みえないけれど

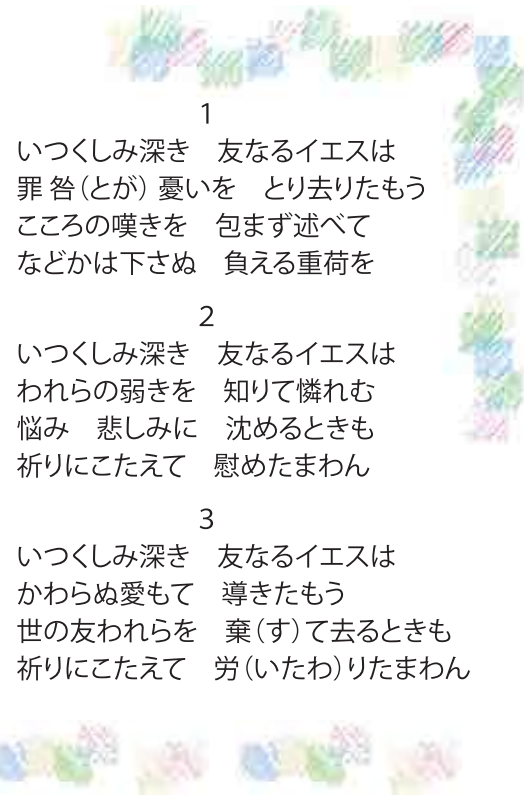
心を開いて イエスの愛を
受け入れたときから 風が吹く

風が吹く どこかへと
確かに吹く 胸の奥に

讚美歌誕生秘話 「いつくしみ深き」

数ある讚美歌の中には、教会に行ったことのない方でも聞いたことのあるものがいくつかあります。「いつくしみ深き」もその一つです。このメロディーを聞いて、昔聞いたことがあると思われる方が多いようです。それもそのはず、明治43年発行の「教科統合中学唱歌」に載せられた「星の界(よ)」という唱歌につけられたメロディーだからです。

さて、讚美歌「いつくしみ深き」の誕生の裏には、ある悲しいエピソードが伝えられています。作詞者のジョゼフ・スクライヴィン(1819~1886)はアイルランドの裕福な家に生まれ、順風満帆の人生を送っていました。ところが、結婚式を前日に控えて、婚約者が溺死するという不幸に見舞われます。傷ついた彼はカナダに移住し、第二の人生を歩み始めます。ここで再び一人の女性と出会い、婚約へとこぎつきます。ようやく幸せが訪れたと思ったのもつかの間、彼女は結核にかかり、帰らぬ人となってしまったのです。どれほどの苦悩と孤独が彼を襲ったことでしょうか。この二度もの悲劇の後、「いつくしみ深き」の詞は生み出されたのです。



1
いつくしみ深き 友なるイエスは
罪咎(とが) 憂いを とり去りたもう
こころの嘆きを 包まず述べて
などかは下さぬ 負える重荷を

2
いつくしみ深き 友なるイエスは
われらの弱きを 知りて憐れむ
悩み 悲しみに 沈めるときも
祈りにこたえて 慰めたまわん

3
いつくしみ深き 友なるイエスは
かわらぬ愛もて 導きたもう
世の友われらを 棄(す)て去るときも
祈りにこたえて 労(いたわ)りたまわん

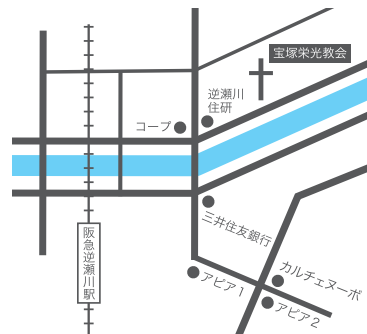
宝塚栄光教会

牧師: 岩間 洋
〒665-0021 宝塚市中州1-15-9 TEL:0797-73-6076
E-mail: info@takara-eikou.com http://www.takara-eikou.com

希望のダイヤル 0797-77-3746
毎週更新。24時間つながります。

わたしたちは統一教会、ものみの塔(エホバの証人)、モルモン教ではなく正統的なキリスト教会です。もしお困りの方はご相談ください。

ポッドキャストでも配信中! ホームページから利用できます。



キリストの平安

何が起ってくるか分からない今の世の中、誰もが平安を求めています。どうしたら平安を得ることができるでしょうか。何を得たら、平安であることができるでしょうか。

イエス・キリストはこう言われました。「わたしは、あなたがたに平安を残します。わたしは、あなたがたにわたしの平安を与えます。わたしがあなたがたに与えるのは、世が与えるのとは違います。あなたがたは心を騒がしてはなりません。恐れてはなりません。」(ヨハネの福音書 14章 27節)

ある人は、「お金があれば安心だ」と言います。本当にそうでしょうか。あるご老人が、一人ひっそりと亡くなりました。その人の枕の下から、数百万円の預金通帳が出てきました。その人は、こつこつ貯めたお金を大事に預金していましたが、いつ誰に奪われるか分からないという不安にさいなまれて、いつも枕の下に入れて寝ていたというのです。お金があっても、平安ではないのです。地位を得られたら平安でしょうか。ある会社の重役は、いつ部下が失敗をして自分が責任を取られるかと思うと、夜もぐっすり眠

れないとこぼしたそうです。地位を得ても、本当の平安にはつながらないのです。

キリストは言われます。「わたしは、あなたがたにわたしの平安を与えます」と。キリストの平安、キリストだけがお与えになる平安をくださると言われるのです。それは、富や地位や名誉といった外側からのものによって得られる平安ではなく、キリストが私たちの内側に与えてくださる平安、魂の平安です。

キリストは罪のない神の子でしたが、私たちのために十字架にかかって死なれました。私たちの傲慢、自己中心…などの罪のためです。私たちがすぐに恐れたり不安になったりするのは、この内心の罪のためなのです。私たちがキリストの十字架を信じるなら、内のすべての罪が赦され、私たちは救われます。その時、私たちは初めて、内側に本当の平安を得ることができます。

この平安は、この世が与えるような、すぐになくなってしまふ、一時的なものではありません。動くことのない深い平安です。あなたもこの平安を内に持つことができます。今、キリストのところにおいでください。



「美しい思い出の花」

夏も本番になろうかと 思われる頃
山の岩場や 道の斜面の 日当たりの良い場所に
アカモノと呼ばれる 白い花が 群生している

萼や茎は 鮮やかな 赤い色をしている
花は スズランに似た壺形で 5mmほどだが
その花の先端が 小さくカールしている
ほんのり 赤みを帯びているのが かわいらしい花だ

背だけは10~30cm つつじの仲間だ
別名イワハゼともいうのは
葉の形が ハゼの葉に 似ているからという

花が終わると 実が赤く熟して 取って食べると 少し甘く
酸味もあって おいしいと 集めて ジャムにした人もいる

花の時期も 実の時期も 赤が目立つので
アカモノと呼ぶのだろうか
「赤桃」がなまって アカモノと呼ばれるようになったともいう

花言葉は 「美しい思い出」
どうか 人の心に 本当に美しいものが 残りますように

いつまでも残るものは 信仰と 希望と 愛です
その中で 一番すぐれているのは 愛です
(聖書)